

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける 訳語の修訂についての考察(V)

— 訳 語 の 訂 正 —

金 敬 雄

目 次

- 一、はじめに
- 二、訳語の修訂
 - I. 見出し語の部分
 - a. 見出し語が共通しているもの
 - b. 見出し語に改訂が加えられているもの
 - II. 子見出しの部分
 - a. 子見出しが共通するもの
 - b. 子見出しに改訂が加えられているもの
- 三、「段」から「段」への修訂
- 四、「陳」から「陣」への修訂
- 五、「擗」から「擘」への修訂
- 六、「樺」から「梓」への修訂
 - I. 見出し語が共通しているもの
 - II. 子見出しが共通しているもの
 - III. 子見出しに改訂が加えられているもの
- 七、「籊」から「箊」への修訂
- 八、「爬」から「爬」への修訂
 - I. 見出し語が共通しているもの
 - II. 見出し語に改訂が加えられているもの
 - III. 子見出しが共通しているもの

- IV. 子見出しに改訂が加えられているもの
- 九、「掄」から「揔」への修訂
 - I. 見出し語が共通しているもの
 - II. 子見出しが共通しているもの
 - III. 子見出しに改訂が加えられているもの
- 十、終わりに

一、はじめに

井上哲次郎の『訂増英華字典』⁽¹⁾では底本であるロブシャイドの『英華字典』⁽²⁾の訳語について、おおまかに分けて次の四つの面で改訂を施している。

- ・訳語の削減：訳語の一部または全部が本来対応していた英語のところから外されたもの。これに関してはすでに拙稿（1999 a）で考察してみた。
- ・訳語の修訂：本来の訳語についての改訂。その内、「符号に関わる訳語の修訂」、「字順の変更による訳語の修訂」、「同義語・類義語の入れ替えによる訳語の修訂」、「訳語の修訂ミス」に関してはすでに拙稿（1999 b、2000 a、b、c）で考察してみた。
- ・訳語の新設：底本では訳語がなかった見出し語及び子見出しの英語に訂増版で初めて訳語を付けたもの。
- ・訳語の増補：底本の訳語の上に新たな訳語を補充したもの。

上に挙げた項目はいずれも英語の訂増とは関連しないものだが、英語の訂増に伴う訳語の改訂としては次のようなパターンがある。

- ・英語の削除：底本にあった見出し語または子見出しの英語が削除され、それに伴って対応していた訳語も一緒に削除されている。
- ・英語の修訂：底本にあった見出し語または子見出しの英語が修訂され、それに伴って訳語が修訂されている。

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(V) (金 敬雄)

- ・ 英語の新設：底本になかった見出し語または小見出しの英語を訂増版で新たに増補し、それに伴って対応する訳語も新たに付けられている。

本稿では井上哲次郎の『訂増英華字典』における訳語の修訂の全容を説明する一環として、訳語の訂正について考察してみたい。ただし、下記のものはずに他の拙稿で考察済みなので、本稿では取りあげないことにする。

- ・ 訳語が重複しているため、一方が単に削除されたもの
- ・ 符号の修訂に伴う訳語の訂正
- ・ 字順の変更による訳語の訂正
- ・ 同義語・類義語の入れ替えによる訳語の訂正

なお、各項目の見出し語の後に品詞を付けるが、それらは全部訂増版に拠っている。

二、訳語の修訂

井上哲次郎の『訂増英華字典』で、底本であるロブシャイドの『英華字典』の訳語のミスに対して訂正を行ったものがある。本稿ではそれらについて考察してみる。項目によっては訂正されている訳語以外に、さらに複数の訳語が付いているケースも多くあるが、紙幅の制限があるため、本稿では個別の項目を除いて、すべて訂正された訳語だけを英語の後に「底本の訳語 ⇒ 訂増版の訳語」の形で提示する。なお、必要によって訳語全般を提示する場合は、修訂されている訳語にアンダーラインを付して示す。

I. 見出し語の部分

この部分では見出しの英語に対応している訳語の訂正であるが、訳語が対応している見出しの特徴から、さらに「見出し語が共通しているもの」と「見出し語に改訂が加えられているもの」に分類することにした。

a. 見出し語が共通しているもの

次の1～18番はいずれも訳語が対応している見出し語が底本と訂増版において共通しているものである。ここでは各項目を「見出し語、品詞、底本の訳語 ⇒ 訂増版の訳語」の形で提示する。

1. Assemble, v.t. or i. 讌會 ⇒ 宴會

『漢語大詞典』によれば、「讌會」は「友人などが酒盛りのための集まり」であると記してある。これは英語「Assemble」とは意味上のずれがある。これを訂増版で「聚斂」の意味である「宴會」に訂正している。

2. Beat, v.t. or i. 搨, 村。⇒ 搨, 杙。

底本の訳語「搨」は『漢語大字典』、『大漢和辭典』のいずれにおいても確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。そのため、訂増版で「搨」に修訂したものである。「搨」には「撃つ」という意味がある。また、底本の訳語「村」は英語「Beat」とは意味上何の関わりもない。訂増版でそれを英語に対応するように「杙」に訂正している。「杙」には「ぶつける」、「撃つ」などの意味がある。

3. Cow-weed, n. 蒲公英 ⇒ 蒲公英

『漢語大詞典』に「蒲公英」は載っているものの、「蒲公英」は確認できない。また、『現代漢語詞典』においても同様である。したがって、底本の訳語「蒲公英」を間違いとして扱い、本稿で取りあげることにした。

4. Dumb-show, n. 音會 ⇒ 瘖會

「音」には英語「dumb」に関わる意味がない。訂増版でこれを「瘖」に訂正している。「瘖」には「唾」の意味があり、英語「dumb」と意味上の対応を成している。

5. Exuded, pp. 流出者 ⇒ 流出過

「流出者」は「流れ出るもの」という意味になる。それに対して、「流出過」は「流れ出た」という意味で、「流れ出る」という状態の完了または過去を表す。英語「Exuded」との対応から見て、底本の訳語「流出者」は適切さが欠

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(V) (金 敬雄)

けている。そのため、訂増版でそれを「流出過」に修訂したものと思われる。

6. Fissiped, a. 又趾的 ⇒ 又趾的

この項は実質上「又」と「又」の入れ替えとなっている。「又」には英語「Fissiped」に関わる意味がない。「又」には「分かれ枝」の意味があり、訂増版の訳語「又趾的」のほうが英語「Fissiped」と意味上の対応を成している。

7. Hammer, v.t. 鍛 ⇒ 鍛

『漢語大字典』によれば、「鍛」は「鍔鍛」のことで、「頸を保護する鎧」であると記してある。即ち、英語「Hammer」とは意味上対応していないのである。そのため、訂増版で「鍛」に修訂したものと思われる。「鍛」には「金槌で打つ」という意味があり、英語と意味上対応している。

8. Hunt, n. 打獵者 ⇒ 打獵

「Hunt」が名詞として使用される際、「狩りをする」という意味はあるが、「狩人」の意味にはならない。しかし、底本の訳語「打獵者」は「狩人」の意味にも取れる。そのため、訂増版で「者」を削除し、訳語を「打獵」に修訂したものと思われる。「打獵」は動詞としても使用されるし、また名詞として使用されることもある。

9. Hypotenuse, Hypothenuse, n. 精 ⇒ 弦

『漢語大字典』によれば、「弦」は数学名詞で、中国古代では不等脚直角三角形の中で直角に向かっている辺を言う」と記してある。また、『明治初期における東京数学会社の訳語会の記事』によれば、明治16年11月10日の数学訳語会で23の訳語が議決されるが、その中に「Hypotenuse 玄 斜辺」が含まれている⁽³⁾。しかし、ここでも「精」は確認できない。したがって、底本の訳語「精」は間違いであるとするべきであろう。訂増版では底本のミスを訂正するため、訳語を「弦」に修訂したものと思われる。ちなみに、現代中国語でも「弦」が使用されている。

10. Intelligent, a. 哲 ⇒ 哲

底本の訳語「哲」は『漢語大字典』、『大漢和辭典』において確認できない。

これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。そのため、訂増版で「哲」に訂正したものと思われる。「哲」には「明智」、「賢明」などの意味があり、英語「Intelligent」と意味上の対応を成している。

11. Irrelevant, a. 支嚙 ⇒ 支離

底本の訳語「支嚙」は『漢語大詞典』、『大漢和辭典』では確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。そのため、訂増版でそれを「支離」に修訂したものと思われる。「支離」には「分散、分裂」などの意味があり、英語「Irrelevant」と意味上対応している。

12. Pur, n. 貌聲 ⇒ 貓聲

底本の訳語「貌聲」が英語「Pur」と意味上の関わりがない。そのため、訂増版でそれを「貓聲」に修訂したものと思われる。

13. Scholiast, n. 解書者, 者書者, 旁訓註, 釋義者。⇒ 解書者, 註書者, 旁訓註者, 釋義者。

まず、「者書者」から「註書者」への修訂であるが、「者」には「著」と同じ意味で使用されることがある。その意味を取れば、「者書者」が作者という意味になる。しかし、対応する英語「Scholiast」は作者を指すのではなく、ある本についての注釈を指すものである。そのため、訂増版で「者書者」を「註書者」に修訂したものと思われる。

次に、「旁訓註」から「旁訓註者」への修訂であるが、これは他の訳語がいずれも「～者」の形になっているのに、「旁訓註」だけが「者」が付いていない。そのため、訂増版で「旁訓註者」に修整したものと思われる。この際「～者」は「事物を表す」意味で捉えるべきであろう。したがって、「旁訓註」から「旁訓註者」への修訂は本稿で対象にしている訳語の訂正の類には入らない。

14. Suspiciousness, n. 好狐礙者 ⇒ 好狐疑者

この項は実質上「礙」と「疑」の入れ替えとなっている。底本のほうの「礙」には英語「Suspiciousness」に関わる意味がない。そのため、訂増版で「疑」に修訂したものと思われる。『漢語大詞典』によれば、「狐疑」には「疑う」と

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(V) (金 敬雄)

いう意味があり、訂増版の訳語「好狐疑者」が英語「Suspiciousness」と意味上の対応を成している。

15. Unfilial, a. 不考 ⇒ 不孝

英語「Unfilial」との対応から見て、底本の訳語「不考」が明らかに間違いであり、訂増版の訳語「不孝」が適切である。

16. Verbose, a. 謔 ⇒ 饜

底本の訳語「謔」は『漢語大字典』、『大漢和辭典』のいずれにおいても確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。そのため、訂増版で「饜」に修訂したものと思われる。「饜」は「多くものを言う」という意味である。

17. Walk, v.i. 従 ⇒ 徃

底本の訳語「徃」は『漢語大字典』、『大漢和辭典』で確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。そのため、訂増版「徃」に修訂したものと思われる。「徃」は「歩く」という意味である。

18. Weary, a. 弊 ⇒ 弊

底本の訳語「弊」は『漢語大字典』、『大漢和辭典』のいずれにおいても確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。そのため、訂増版「弊」に修訂したものと思われる。「弊」には「疲れる」という意味がある。

b. 見出し語に改訂が加えられているもの

この部分には次の1項しかない。

1. (底本) Cotangent, (訂増版) Co-tangent, n. 餘功 ⇒ 餘切

『漢語大詞典』では「餘功」と「餘切」の両方を収録してあるが、「餘功」は「空いている時間」の意味だと記しており、数学に関わる意味は確認できない。一方、「餘切」のほうは、数学の三角法の用語として解釈され、数学式まで提示してある。また、『明治初期における東京数学会社の訳語会の記事』に

よれば、明治17年2月2日の数学訳語会で22の訳語が議決されるが、その中に「Cotangent 餘切」が含まれている⁽⁴⁾。しかし、「餘功」は確認できない。したがって、底本の訳語「餘功」は間違いであると見るべきであろう。訂増版では底本のミスを訂正するため、訳語を「餘切」に修訂したものと思われる。ちなみに、現代中国語でも「餘切」が使用されている。

II. 子見出しの部分

この部分では子見出しの英語に対応している訳語の訂正になるが、訳語が対応している子見出しの特徴から、さらに「子見出しが共通するもの」と「子見出しに改訂が加えられているもの」に分類することにした。

a. 子見出しが共通するもの

次の1～40番はいずれも訳語に対応している子見出しの英語が底本と訂増版において共通しているものである。ここでは各項目を「見出し語、品詞、子見出しの英語、底本の訳語 ⇒ 訂増版の訳語」の形で提示する。

1. Absterge, v.t. to wipe clean. 抹乾淨, 拭乾, 抹乾淨. ⇒ 抹乾, 拭乾, 抹乾淨。

底本では訳語「抹乾淨」が重複している。そのため訂増版で前のほうの「抹乾淨」を「抹乾」に修訂したものと思われる。

2. Addle, a. addle eggs. 軟壳蛋, 無精蛋, 鰥。⇒ 軟壳蛋, 無精蛋, 鰥。

『大漢和辭典』によれば、「壳」は「賣」の略字である。したがって、底本の訳語「軟壳蛋」が意味不明な表現である。そのため、訂増版で「軟壳蛋」に修訂したものと思われる。なお、「蛋」は「蛋」の間違いであり、「鰥」は「鰥」の間違いであると思われるが、訂増版でそのまま継承している。いずれも字体が類似しているため、底本で間違っているだろうし、また同じ理由で訂増版で見落としたものと思われる。

3. Adulation, n. to servilely flatter one. 阿媚奉承 ⇒ 阿媚奉承

『漢語大詞典』に「阿媚」が収録されており、それは「阿谀奉承」(人に媚

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(V) (金 敬雄)

びへつらうためにお世辞を言うこと)の意味だと記してある。このような意味を表現するのに中国語で「呵媚」は使用されない。

4. Alloy, v.t. to reduce or abate by mixture. 摻 ⇒ 摻勾低

広東語で「摻」は「混ぜる」という意味なので、底本の訳語「摻」は英語の「mixture」の部分だけに対応していることになる。訂増版では、訳語を英語「to reduce or abate by mixture」全体に対応させるため、「摻勾低」に修訂したものと思われる。「勾」には「引く、取り消す」などの意味があるので、「勾低」を「低くする」という意味に解釈できるだろう。

5. Artifice, n. to cheat the ignorant by (clever) artifices. 以術愚人 ⇒ 以術欺騙愚人

底本の訳語「以術愚人」は「何かのわざで人をバカにする」という意味である。これだと英語の「cheat」の意味が明白に表現されていない。そのため、訂増版で「cheat」に対応する言葉「欺騙」を補い、訳語を「以術欺騙愚人」に修訂したものと思われる。

6. Ascend, v.t. or i. to ascend high trees. 遷干喬木 ⇒ 遷于喬木

介詞「于」には、動作・行為が行われる地点を導く用法がある。訳語が対応している英語「to ascend high trees」から見て、介詞「于」を使用するべきだが、底本では「干」となっている。それを訂増版で「于」に訂正している。

7. Band, n. a band of a wheel. 拖線 ⇒ 箍線

『漢語大詞典』、『大漢和辭典』のいずれにおいても「拖線」は確認できない。しかし、「拖線」を「線を引っ張る」または「何かを引っ張るのに使用する線」と解釈できるだろう。それにしても、これは英語「a band of a wheel」との対応が成されていない。そのため、訂増版で「箍線」に修訂したものと思われる。「箍線」も『漢語大詞典』、『大漢和辭典』などにおいて確認できないが、「箍」には「ものを縛るのに使用する環」という意味があるので、「箍線」は類義語の組み合わせでできた言葉となる。したがって、訂増版の訳語「箍線」が英語「a band of a wheel」と意味上の対応を成している。

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(V) (金 敬雄)

においても確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。そのため、訂増版で「熾」を「熾」に修訂したものと思われる。「熾」は「焼く」という意味であり、英語「to consume with fire」と意味上対応している。

なお、「燻」と「燻」は類義語であり、すでに拙稿(2000 b)で触れた。また、「颯」から「颯」への修訂は、訂増版の修訂ミスである。

13. But, prep. or conj. nothing but a scratch. 不過抓損 ⇒ 不過抓損

底本のほうの「抓」は「引く」、「打つ」という意味であり、訳語「不過抓損」が英語「nothing but a scratch」との対応を成していない。そのため、訂増版で訳語を「不過抓損」に修訂したものと思われる。「抓」には「引っかく」という意味があるので、訂増版の訳語「不過抓損」のほうが英語「nothing but a scratch」と意味上対応している。

14. Chop-fallen, a. dejected. 頭 ⇒ 低頭

底本の訳語「頭」だけでは英語「dejected」と意味上の対応が成されていない。そのため、訂増版でそれを「低頭」に修訂したものと思われる。「低頭」は「頭をたれる」の意味なので、英語「dejected」と意味上対応している。

15. Collide, v.i. to strike or dash against each other. 相掀 ⇒ 相掀

「掀」は『漢語大字典』、『漢語大詞典』、『大漢和辭典』のいずれにおいても確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。そのため、訂増版で「掀」に修訂したものと思われる。「掀」には「持ち上げる、攻略する」などの意味があり、訳語「相掀」が英語「to strike or dash against each other」と意味上対応している。

16. Colliding, ppr. striking or dashing against. 相掀 ⇒ 相掀

上の15番と同様である。

17. Companion, n. a good companion. 唔好同伴, 損友。⇒ 唔好同伴, 好友。

底本の訳語「損友」が英語「a good companion」とは反対の意味である。

訂増版でそれを「好友」に訂正している。ところが、底本の訳語「唔好同伴」も「損友」と同じケースだが、これは訂増版でそのまま継承している。

18. Corpulent, a. stout, fat. 肥大, 肥臍, 肥胖, 骯髒, 臃臃, 碩大, 脰肛, 臃。⇒ 肥大, 肥臍, 肥胖, 骯髒, 臃降, 碩大, 脰肛, 肥胖, 肥肪, 臃。

この項の中に、「臃臃」から「臃降」への修訂があるが、これを同義語の入れ替えとして扱い、すでに拙稿(2000b)で触れている。本稿では「脰肛」から「脰肛」への修訂に注目して再度取り上げることにした。底本の訳語「脰肛」の「脰」は「腫れ上がる」という意味であり、訳語「脰肛」が英語「stout, fat」とは意味上のずれがある。そのため、訂増版で「脰肛」に修訂したものである。『漢語大字典』によれば、「脰肛」は「肥えていて、大きい」という意味である。

なお、訂増版のほうの訳語「肥胖, 肥肪」は訂増版で新たに増補したものである。

19. Cracked, pp. or a. burst or split. 掀坼 ⇒ 掀坼

「掀」と「掀」は上の15番で述べた通りである。また、「坼」には「裂く」という意味がある。したがって、訂増版の訳語「掀坼」は「裂くようにする」という意味になり、英語「burst or split」に対応している。

20. (底本の見出し語) Curry powder, (訂増版の見出し語) Curry, Curry powder, n. curry sauce. 咖喱 ⇒ 咖喱醬

底本の訳語「咖喱」では、「sauce」の意味が抜けている。訂増版では「咖喱」を「咖喱醬」に修訂することで、その部分を補っている。

21. Dead, a. a dead tree. 枯樹, 樞, 柶。⇒ 枯樹, 樞, 柶。

「枯」は「木の名」、または「あてぎ」の意味である。したがって、底本の訳語「枯樹」が英語「a dead tree」と意味上対応していない。訂増版ではそれを「a dead tree」に対応させるために「枯樹」に修訂したものである。

また、底本の訳語「樞」は『漢語大字典』、『漢語大詞典』、『大漢和辭典』のいずれにおいても確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(V) (金 敬雄)

葉であろう。そのため、訂増版で「樞」に修訂したものと思われる。「樞」は「立ち枯れの木」という意味である。

22. Dollar, n. the eighth of a dollar. 八開, 九分。⇒ 八開, 八分。

英語の「eighth」の部分から見て、底本の訳語「九分」が明らかに間違いである。訂増版ではそれを英語に対応させて「八分」に訂正している。

23. Effectually, adv. with effect. 有應驗, 有成功, 有成效, 有形迹。⇒ 有應驗, 有成功, 有成效, 有形效。

まず、「有形迹」から「有成效」への修訂を見たい。対応している英語「with effect」から見て、「有形迹」は明らかに不適切である。そのため、訂増版で英語に対応させるため、「有成效」に修訂したものと思われる。

次は「有成效」から「有成功」への修訂だが、この2語は類義語であり、どちらも英語「with effect」と意味上対応している。ところが、この修訂の結果、訂増版の訳語には「有成功」が二つとなり、不自然な形となっている。即ち、この修訂は訂増版の修訂ミスと見るべきである。したがって、「有成效」から「有成功」への修訂は本稿で対象にしている訳語の訂正の類には入らない。

24. Emaciated, pp. or a. lean. 瘠瘠 ⇒ 癯癯

底本の訳語「瘠」は『漢語大字典』、『漢語大詞典』、『大漢和辭典』のいずれにおいても確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。訂増版ではそれを「癯」で入れ替え、訳語を「癯癯」に修訂している。「癯癯」は「痩せている様子」という意味であり、英語「lean」と意味上対応している。

25. Fire, n. signal fire. 烽烟 ⇒ 烽烟

底本のほうの「烽」は『漢語大字典』、『漢語大詞典』、『大漢和辭典』のいずれにおいても確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。訂増版ではそれを「烽」で入れ替え、訳語を「烽烟」に修訂している。「烽烟」は「のろし」という意味であり、英語「signal fire」と意味上対応している。

26. hammer, v.t. to hammer and forge. 鎚鍛 ⇒ 鎚鍛

この項では実質上「鍛」と「鍛」の入れ替えとなっている。「鍛」と「鍛」の違いに関しては、上の「二・I・a」の7番で述べているので、そちらを参照されたい。底本の訳語「鎚鍛」を強いて解釈すれば、「鎧を製造する」という意味になるであろう。しかし、これでは英語「to hammer and forge」とは意味上のずれがある。一方、『漢語大辞典』によれば、訂増版の訳語「鎚鍛」は「金槌で打つ」という意味だと記しており、英語「to hammer and forge」と意味上対応している。

27. Heat, n. the heat of the mind. 火熱 ⇒ 心熱

底本の訳語「火熱」は単に「たいへん熱い」という意味なので、英語「the mind」の意味が抜けている。そのため、訂増版で「火熱」を「心熱」に修訂したと思われる。

28. Imputation, n. false imputation. 極捏 ⇒ 誣捏

底本のほうの「極」は『漢語大辞典』、『漢語大辞典』、『大漢和辞典』のいずれにおいても確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。訂増版ではそれを「誣」で入れ替え、訳語を「誣捏」に修訂している。「誣捏」は「無実の罪をでっち上げてかぶせる」という意味であり、英語「false imputation」と意味上対応している。

29. Inspect, v.t. to inspect minutely. 覘 ⇒ 覘

底本の訳語「覘」は『漢語大辞典』、『大漢和辞典』などでは確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。そのため、訂増版でそれを「覘」に修訂したと思われる。「覘」には「見る」という意味があり、英語「to inspect minutely」と意味上対応していると言えるであろう。

30. Melt, v.t. to make liquid. 鍛鍊 ⇒ 鍛鍊

『漢語大辞典』によれば、「鍛」は「鍛」の誤字である。そのため、訂増版で訳語「鍛鍊」を「鍛鍊」に修訂したと思われる。

31. Narrow, a. a narrow pass. 陝隘, 陝隘, 窄隘, 哱陝。⇒ 狹隘, 陝隘,

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(V) (金 敬雄)

窄隘, 峽陝。

『漢語大字典』によれば、「陝」は地名と苗字に使用されるものである。それに対して、「陝」は「狭い」、「山間」の意味であると記してある。底本では訳語に「陝」を使用しているが、これらは「陝」の間違いであろう。また、底本では訳語「陝隘」を二つ使用している。そのため、訂増版で前のほうを「狭隘」に修訂し、その次の「陝隘」は「陝隘」に修訂したものと思われる。さらに「峽陝」も「峽陝」に修訂している。

32. Proof, n. a sheet taken for correction. 稿 ⇒ 稿

「稿」には「枯れ木」、「死ぬ」などの意味があり、英語「a sheet taken for correction」に関わる意味がない。そのため、訂増版で「稿」に修訂したものと思われる。「稿」には「詩文、図画の下書き」という意味がある。ちなみに「稿」と「稿」は共に「枯れ木」という意味があり、その点では同義語である。

33. Proof, n. to take a proof of. 打稿 ⇒ 打稿

「稿」と「稿」の意味は上の32番で述べた通りである。また、『漢語大詞典』には「打稿」が収録しており、「詩文を作る時の下書き」だと記してある。しかし、底本の訳語「打稿」は確認できない。また、「稿」の意味から見て、「打稿」は英語「to take a proof of」の訳語にはなれない。

34. Psalter, n. the book of Psalms. 聖詩 ⇒ 聖詩之書

底本の訳語「聖詩」では英語の「the book」の意味が抜けている。訂増版ではそれを補い、訳語を「聖詩之書」に訂正している。

35. Signal, n. signal fire. 烽, 烽烟。⇒ 烽, 烽烟。

上の25番と同様である。なお、「烽」だけでも「のろし」という意味がある。

36. Slip, n. to get the slip. 被却, 見却。⇒ 被却, 見却。

底本のほうの「却」は『漢語大字典』、『大漢和辭典』などで確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。そのため、訂増版で「却」に修訂したものと思われる。

37. Squab, v.i. to fall plump. 直趺 ⇒ 直跌

底本のほうの「跌」には英語「to fall plump」に関わる意味がない。そのため、訂増版で「跌」で入れ替え、訳語を「直跌」に修訂したと思われる。「跌」には「倒れる」、「落ちる」などの意味がある。

38. Walk, n. the evening walk. 遊逛 ⇒ 夜逛

底本の訳語「遊逛」はただ「ぶらぶら見物する」という意味で、英語の「evening」の意味が抜けている。そのため、訂増版で「夜逛」に修訂したと思われる。

39. Work, v.t. to work iron. 鍛錬 ⇒ 鍛鍊

上の30番と同様である。

40. Year, n. a lunar year, 354 days. 晬 ⇒ 晬

底本の訳語「晬」には英語「a lunar year, 354 days」に関わる意味がない。そのため、訂増版で「晬」に修訂したと思われる。「晬」には「一周年」の意味がある。ちなみに「晬」と「晬」が共に「潤い様子」という意味があり、その点では同義語である。

b. 子見出しに改訂が加えられているもの

次の1～8番は訳語が対応している子見出しの英語に改訂が加えられているものである。しかし、いずれにおいても訳語の修訂と英語の修訂が関連していない。したがって、個別の項目を除いて、英語のほうは単に提示することに留めておきたい。ここでは各項目を「見出し語、品詞、(底本)子見出しの英語、(訂増版)小見出し語の英語、底本の訳語 ⇒ 訂増版の訳語」の形で提示する。

1. (底本の見出し語) Arbutus, (訂増版の見出し語) Arbutus, arbutus. n.
(底本の子見出し)arbutus. 陽梅 ⇒ 楊梅

底本では一つの項目に親見出しが複数ある場合、それぞれの頭文字を大文字にし、行を改めて並べる。この項では「arbutus」の頭文字が小文字で綴られており、子見出しとなっている。しかし、訂増版では「arbutus」の後に品詞名「n.」が付けられており、「arbutus」が親見出しの一部となっている(図1

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(V) (金 敬雄)

を参照されたい)。

さて、訳語の修訂になるが、『漢語大詞典』には「楊梅」は載っているものの、「陽梅」は確認できない。ちなみに、『現代漢語詞典』にも「楊梅」しか載っていない。したがって、底本の訳語「陽梅」を間違いとして扱い、本稿で取りあげることにした。

図1 (底本) (訂増版)

Arbuta, arbutus, 陽梅 yáng méi. Yáng mei. Arbuta, arbutus, n. 楊梅, 樹梅.

2. Cepola, n. (底本の子見出し) band-fish. (訂増版の子見出し) a fish of a species of the genus acanthopterygii, called red band-fish. 紅帶 ⇒ 紅帶魚

底本の訳語「紅帶」では英語の「fish」の意味が抜けている。訂増版ではそれを補い、訳語を「紅帶魚」に修訂している。

3. Chatter, v.i. (底本の子見出し) ditto like a swallow. (訂増版の子見出し) to chatter like a swallow. 語 ⇒ 燕語

底本の訳語「語」だけでは英語の「swallow」の意味が抜けている。そのため、訂増版で訳語を「燕語」に修訂したものと思われる。

4. Dry, v.t. (底本の子見出し) to, in the sun. (訂増版の子見出し) to dry in the sun. 曬 ⇒ 曬

底本の訳語「曬」は『漢語大字典』、『大漢和辭典』のいずれにおいても確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。訂増版ではそれを「曬」に修訂している。「曬」には「かわかす」という意味がある。

5. Exuberant, a. (底本の子見出し) ditto, as vegetation. (訂増版の子見出し) overabundant, as vegetation. 婆婆 ⇒ 婆婆

『漢語大字典』、『漢語大詞典』、『大漢和辭典』のいずれにおいても「婆婆」は確認できない。逆に『漢語大字典』の「婆」の項に「婆婆」が挙げられてお

り、それは「草木が茂っている様子」だと記してある。したがって、訂増版の訳語「婆娑」が英語と意味上の対応を成している。底本の訳語「婆娑」は一般的に使用されていないため、訂増版で「婆娑」に修訂したものと思われる。

6. Shade, n. (底本の子見出し) a shade for Her M. carriage. (訂増版の子見出し) a shade for Her Majesty's carriage. 嘸翟 ⇒ 厭翟

『漢語大詞典』に「厭翟」が収録されており、それは「皇后、妃、皇女が乗る車」のことで記してある。しかし、底本の訳語「嘸翟」は確認できない。訂増版で「嘸翟」を「厭翟」のミスだと判断し、修訂を施したものと思われる。

7. Silk, n. (底本の子見出し) Ts'at li ditto. 七里 ⇒ 七里絲

底本では訳語が対応している子見出しの英語が「Ts'at li ditto」となっている。親見出し「Silk」の項の全体の様相から見れば、ここの「ditto」は「silk」を指しているものと思われる。しかし、底本の訳語「七里」では「silk」の部分が抜けており、明らかに不適切である。そのため、訂増版で「絲」を補い、訳語を「七里絲」に修訂したものと思われる。なお、この項では底本にある子見出しの英語の多くが訂増版で削除されている(図2を参照されたい)。そのため、この項には訂増版の子見出しの英語がない。

図2 (底本)

Silk *, raw ditto, 絲 *sz*. Sz, 糸 *sz*. Sz; Canton raw silk, 土絲 *t'ò*, *sz*. T'ò *sz*; Nanking ditto, 湖絲 *ú*, *sz*. Hú *sz*; Sz chuen yellow ditto, 四川黃絲 Sz ch'án wong *sz*. Sz ch'uen hwáng *sz*; the three grades of Canton raw silk, *sz*—No. 1, Lung kong ditto, 龍江絲 Lung kiáng *sz*; Lung shán ditto, 龍山絲 Leng shán *sz*; Kóm chuk, ditto, 甘竹絲 Káo chuk *sz*; Wong Hú ditto, 黃連絲 Hwáng lien *sz*; Luk, jau ditto, 撈樓絲 Yeh lau *sz*; No. 2, 'Kau kong ditto, 九江絲 Kíú kiáng *sz*; Hang' tán ditto, 杏壇絲 Hang t'án *sz*; Shá 't'au ditto, 沙頭絲 Shá 't'au *sz*; Kót ngon' ditto, 葛岸絲 Kót ngán *sz*; No. 3, 'Siú 'lám ditto, 小攔絲 Siú lán *sz*; Kwai' chau ditto, 桂州絲 Kwai' chau *sz*; Ts'at, 'í ditto, 七里 Ts'ih lí *sz*; the great worm, 大蠶 tá' tsám. Tá tsám, T'ín fá,

(訂増版)

Silk, * n. Raw silk, 絲, 糸; Canton raw silk, 土絲; Nanking raw silk, 湖絲; Sz chuen yellow silk, 四川黃絲; the three grades of Canton raw silk, 絲, *sz*—No. 1, 龍江絲, 龍山絲, 甘竹絲, 黃連撈樓絲; No. 2, 九江絲, 杏壇絲, 沙頭絲, 葛岸絲; No. 3, 小攔絲, 桂州絲, 七里絲; the great silk worm, 大蠶, 蠶花, 紹興, 全面, 絨庄, 統庄;

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(V) (金 敬雄)

8. Y, (底本の子見出し) Y [150], (訂増版の子見出し) Y, 150. (底本の訳語) 五百 ⇒ (訂増版の訳語) 百五十

底本の訳語「五百」が明らかに間違いである。訂増版でそれを「百五十」に修訂している。

ところが、「百五十」という表現が、日本語としては問題ないが、中国語の表現としては若干不自然な形となっている。中国語では、物を数える際、普通百の前に数字を付けるので、正確には「一百五十」とするべきである。ただし、「百五十」が中国語としても一応意味が通じるし、底本の訳語「五百」と比較すれば大きな修正となるので、この項を訳語の訂正項目として扱い、本稿で取り上げることにした。この項を日本語の干渉による例として注目すべきである。

上で見てきた訳語の修訂項目全体がA～Zの部における分布状況は次の通りである。

A	B	C	D	E	F	H	I	M	N	P	S	U	V	W	Y	合計
8	8	11	4	4	2	5	4	1	1	4	7	1	1	4	2	67

三、「段」から「段」への修訂

『漢語大字典』によれば、「段」には「借りる」の意味、「苗字」としての用法の外に、「瑕」、「遐」の意味にも通じて使用されると記してある。それに対して、「段」には「金槌で打つ」、「切断」、「ランクの名称」、「苗字」などの意味と用法以外に、数量詞として使用される際、「布などの一切れ」、「一定の距離、時間」、「事物の一部」などの意味がある。底本では、「段」を使用すべきところに「段」をしているものがあり、その類のものが全巻を通して9項確認できた。その内、1項は訂増版でそのまま継承しているが⁽⁵⁾、次の8項では訂増版で全部「段」で入れ替えている。

1. A, a piece of ground. 一段地 ⇒ 一段地

「段」には英語「a piece」に関わる意味がない。そのため訂増版で「事物の一部分」という意味のある「段」で入れ替え、訳語を「一段地」に修訂したものと思われる。

2. Clever, a. he is very clever. 好手段嘖 ⇒ 好手段嘖

「段」の意味から見て、「手段」という表現はあり得ない。しかし、「手段」には「方法、措置」の外に、また「才能、能力、技巧」などの意味もあり、英語「clever」と意味上の対応を成している。そのため、訂増版で訳語を「好手段嘖」に修訂したものと思われる。

3. Craft, n. art. 手段 ⇒ 手段

「手段」と「手段」の意味は、上の2番で述べた通りで、訂増版の訳語「手段」のほうが英語「art」と意味上の対応を成している。

4. Most, a. or adv. for the most part. 大段 ⇒ 大段

底本のほうの「段」には英語「for the most part」に関わる意味がない。即ち、「大段」は英語と意味上の対応を成していない。そのため、訂増版でそれを「大段」に修訂したものと思われる。『漢語大辞典』によれば、「大段」には「大部分、主要な」などの意味がある。したがって、訳語「大段」が英語「for the most part」と意味上の対応を成している。

5. Plot, n. (底本の子見出し) a, of ground. (訂増版の子見出し) a plot of ground. 一段地 ⇒ 一段地

上の1番と同様で、「段」には英語「a plot of ground」に関わる意味がない。そのため、訂増版で「事物の一部分」という意味のある「段」で入れ替え、訳語を「一段地」に修訂したものと思われる。

6. Sing, v.i. or t. to sing a song. 唱一段歌 ⇒ 唱一段歌

これは上の1、5番と同様で、「段」には英語「to sing a song」に関わる意味がない。それに対して、「段」には「事物の一部分」という意味があり、「唱一段歌」が「歌を少し歌う」という意味になり、英語「to sing a song」と意味上の対応を成している。

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(V) (金 敬雄)

7. Trick, n. sleight. 手段 ⇒ 手段

「手段」と「手段」の意味は、上の2番で述べた通りで、訂増版の訳語「手段」のほうが英語「sleight」と意味上の対応を成している。

8. Trick, n. to place tricks. 弄手段 ⇒ 弄手段

「手段」と「手段」の意味は、上の2番で述べた通りで、訂増版の訳語「弄手段」のほうが英語「to place tricks」と意味上の対応を成している。

上の8項に関して、それらの底本の部分を見ると、北京官話の発音表記のところ「段」に対応しているのが「twán」となっており、実際は「段」ではなく、「段」であるはずだったことが窺える。これはおそらくロブシャイドの『英華字典』を製版する過程で何らかの理由で起こった誤植によるものだろう。

なお、「段」から「段」に修訂された8項がA～Zの部における分布状況は次の通りである。

A	C	M	P	S	T	合計
1	2	1	1	1	2	8

四、「陳」から「陣」への修訂

「陳」と「陣」は共に「陣立て」という意味があり、その点では同義語である。ところが、「陣」には、また「一定の時間の経過」を表す場合がある。それに対して「陳」のほうは「古い」という意味はあるものの、それが「一定の時間の経過」を表すものだとは言えない。

底本では、「一定の時間の経過」を表すのに「陳」を使用しているものがあり、訂増版でそれらを全部「陣」に修訂している。この類の修訂が全巻を通して、次の5項が確認できた。

1. Momentarily, adv. 毎陳時 ⇒ 毎陣時

2. Momentary, a. 一陳咁耐 ⇒ 一陣咁耐

3. Moment, n. every moment. 毎陳, 毎陳時。⇒ 毎陣, 毎陣時。
4. Momentary, a. a momentary glance. 睇一陳 ⇒ 睇一陣
5. Moment, n. (底本の子見出し) a, of time. (訂増版の子見出し) a moment of time. 一陳, 陳時。⇒ 一陣, 陣時。

なお、「陣立て」という意味での使用なのに、底本の「陳」を訂増版で「陣」で入れ替えたものが全巻を通して2項確認できた。それらに関しては拙稿(2000b)を参照されたい。

五、「搨」から「楯」への修訂

『漢語大字典』によれば、「搨」には「飛び抜けているもの」の意味と「搢」の意味があると記しており、「楯」に関しては「楔」の異体字であると記してある。対応している英語の意味から見て、訳語に「楯」を使用すべきところに底本で「搨」を使用したものがあり、この類のものが全巻を通して9項確認できた。その内、1項は訂増版でそのまま継承しているが⁽⁶⁾、次の8項は訂増版で全部「楯」で入れ替えている。

1. Wedge, v.t. 搨, 搨住。⇒ 楯, 楯住。
2. Wedged, pp. 搨了 ⇒ 楯了
3. Wedging, ppr. 搨 ⇒ 楯
4. Wedge, v.t. to wedge even. 搨平 ⇒ 楯平
5. Wedge, v.t. to wedge up. 搨正 ⇒ 楯正
6. Wedge, v.t. wedge it. 搨住佢 ⇒ 楯住佢
7. Wedge, v.t. wedge it tight. 搨穩佢 ⇒ 楯穩佢
8. Wedge, v.t. to wedge the table. 搨檯脚 ⇒ 楯檯脚

六、「樺」から「梓」への修訂

『大漢和辭典』、『漢語大字典』によれば、「樺」は「木の名」である。また、「梓」には「ほぞ」、「木が朽ちる」などの意味がある。訳語が対応している英語の意味から見て、「梓」を使用すべきところに底本で「樺」を使用しているものが23項あった。訂増版ではそれらを全部「梓」に修訂している。本稿では、それらの出処を対応している英語だけで提示しておきたい。なお、訳語が対応している英語の特徴から「見出し語が共通しているもの」、「子見出しが共通しているもの」、「子見出しに改訂が加えられているもの」に分類することにした。

I. 見出し語が共通しているもの

1. Belaying-pin, n.
2. Coupling-pin, n.
3. Piston, n.
4. Piston-rod, n.
5. Ratch, n.
6. Ring-bolt, n.
7. Toggel, n.
8. Unbolt, v.t.
9. unlatch, v.i.

II. 子見出しが共通しているもの

1. Bolt, n. a strong cylindrical pin of iron.
2. Bolt, v.t. to fasten with a bolt.
3. Bolted, pp. or a. made fast with a bolt.

4. Bolting, ppr. fastening with a bolt.
5. Catch, n. a hook, a catch.
6. Embolus, n. a piston.
7. Fasten, v.t. to fasten with a bolt.
8. Fasten, v.t. fasten it well, as with a bolt, hook or latch.
9. Pump, n. the plug of a pump.
10. Scull, n. the scull-pin or pivot.
11. Shoot, v.t. to shoot a bolt.
12. Shutter, n. shutter bolts.
13. Upon, prep. upon the latch.

Ⅲ. 子見出しに改訂が加えられているもの

1. Fastening, ppr. or n. (底本の子見出し) ditto a bolt. (訂増版の子見出し) fastening a bolt.

なお、これら「樺」から「粹」に修訂された項目がA～Zの部における分布状況は次の通りである。

B	C	E	F	P	R	S	T	U	合計
5	2	1	3	3	2	3	1	3	23

七、「籬」から「籬」への修訂

底本では、「Band」と「Banded」の見出しの項において、訳語に「籬」を使用している。しかし、「籬」は『漢語大字典』、『漢語大詞典』、『大漢和辭典』のいずれにおいても確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。訂増版でそれらを全部「籬」に修訂している。「籬」には「ものを縛るのに使用する環」という意味がある。次はそれらの出処である。

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(V) (金 敬雄)

1. Band, n. (底本の子見出し) a faggot band. (訂増版の子見出し) a fagot band. 籬 ⇒ 籬
2. Band, n. a gold head band. 金籬 ⇒ 金籬
3. Band, n. an iron band. 鐵籬 ⇒ 鐵籬
4. Band, v.t. to bind together. 打籬 ⇒ 打籬
5. Banded, pp. or n. bound with a band. 籬過, 打過籬。⇒ 籬過, 打過籬。

八、「爬」から「爬」への修訂

「爬」は『漢語大字典』、『漢語大詞典』、『大漢和辭典』のいずれにおいても確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。しかし、底本では、「爬」を使用するべきところに「爬」を使用しているものがあり、訂増版でそれらを全部「爬」に修訂している。この類のものが全巻を通して27項確認できたが、それらが項目によっては、「爬」一字で訳語になっている場合もあれば、また「爬」が訳語の構成要素となっている場合もある。本稿では、その違いによる分類はせず、それらの出処を一括して英語だけで提示しておきたい。なお、訳語が対応している英語の特徴から「見出し語が共通しているもの」、「見出し語に改訂が加えられているもの」、「子見出しが共通しているもの」、「子見出しに改訂が加えられているもの」に分類することにした。

I. 見出し語が共通しているもの

1. Raked, pp.
2. Scrabble, v.i.
3. Scrambler, n.
4. Scratcher, n.
5. Scratching, ppr.

6. Scrawl, v.i.
7. Unraked, a.

II. 見出し語に改訂が加えられているもの

1. (底本の見出し語) Reptiles, (訂増版の見出し語) Reptile, n.

III. 子見出しが共通しているもの

1. Rake, v.t. to gather with a rake.
2. Rake, v.t. to rake open.
3. Rake, v.t. to rake together.
4. Rake, v.t. to gather by violence.
5. Raking ppr. or a. scraping.
6. Rampant, a. a rampant horse.
7. Rampant, a. a rampant lion.
8. Scramble, v.i. to scramble.
9. Scramble, v.i. to move or climb by seizing objects with the hand, and drawing the body forward.
10. Scramble, v.i. to scramble up a rock.
11. Scrambling, ppr. climbing.
12. Scraped, pp. scraped together.
13. Scratch, v.t. to scratch an itching place.
14. Scratch, v.t. to scratch up, as the ground.
15. Scratch, v.t. to scratch a hole.
16. Strife, n. the strife of life.
17. Swarm, v.i. to climb, as a tree.

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(V) (金 敬雄)

IV. 子見出しに改訂が加えられているもの

1. Rampant, a. (底本の子見出し) the posture of climbing. (訂増版の子見出し) in the posture of climbing.
2. Scratched, pp. (底本の子見出し) ditto with the nails or talons. (訂増版の子見出し) scratched with the nails or talons.

なお、「爬」から「爬」に修訂された項目がA～Zの部における分布状況は次の通りである。

R	S	U	合計
9	17	1	27

九、「擦」から「擦」への修訂

「擦」は『漢語大字典』、『漢語大詞典』、『大漢和辭典』のいずれにおいても確認できない。これはおそらく一般的に使用されていない言葉であろう。しかし、底本では、「擦」を使用すべきところに「擦」を使用しているものがある。訂増版でそれらを全部「擦」に修訂している。この類のものが全巻を通して9項確認できた。本稿では、それらの出処を対応している英語だけで提示しておきたい。なお、訳語が対応している英語の特徴から「見出し語が共通しているもの」、「子見出しが共通しているもの」、「子見出しに改訂が加えられているもの」に分類することにした。

I. 見出し語が共通しているもの

1. Scratch, v.t.
2. Scratches, n.
3. Scratching, ppr.

II. 子見出しが共通しているもの

1. Scratch, v.t. to scratch to pieces.
2. Scratch, v.t. to scratch one's face, to lose one's character.
3. Scratched, pp. a scratched face.
4. Strife, n. the strife of life.

III. 子見出しに改訂が加えられているもの

1. Scratched, pp. (底本の子見出し) ditto with the nails or talons. (訂増版の子見出し) scratched with the nails or talons.
2. Take, v.t. (底本の子見出し) ditto with one hand. (訂増版の子見出し) to take with one hand.

この部分の「九・I・3」、「九・II・4」、「九・III・1」の3項は、上の「八」で「爬」から「爬」への修訂項目として一度取り上げている。ここでは「捺」から「捺」への修訂で再度取り上げることになった。

なお、「捺」から「捺」に修訂された項目がA～Zの部における分布状況は次の通りである。

S	T	合計
8	1	9

十、終わりに

上では井上哲次郎の『訂増英華字典』における訳語の訂正について考察してきた。言い換えれば、ロブシャイドの『英華字典』における訳語のミスに関する一考察にもなる。この考察を通して、本稿で取り上げた項目に限ってみれば、ロブシャイドの『英華字典』における訳語のミスには次のような特徴があることが分かった。

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(V) (金 敬雄)

(1) 訳語が対応している英語と意味上のずれがあるか、または意味上の対応を成していないもの (79項)

「二・I・a」: 1、2、4、6、7、8、9、11、12、13、14、15番

「二・I・b」: 1番

「二・II・a」: 2、3、6、7、10、11、13、14、17、18、21、22、23、
26、27、31、32、33、37、40番

「二・II・b」: 6、8番

「三」: 8項

「四」: 5項

「五」: 8項

「六」: 23項

この内、「二・I・a・2」は「村」から「杙」への修訂を言う。また、「二・II・a・21」は「枯樹」から「枯樹」への修訂を言う。

(2) 訳語または訳語に使用されている言葉が一般的に使用されていないと思われるものがあること (60項)

「二・I・a」: 2、10、16、17、18番

「二・II・a」: 8、12、15、16、19、21、24、25、28、29、35、36番

「二・II・b」: 4、5番

「七」5項

「八」27項

「九」9項

この内の多くはロブシャイドの『英華字典』で独自に作った文字であると思われる。

「二・I・a・2」と「二・II・a・21」は上の特徴(1)でも取り上げているが、ここでは、それぞれ、「採」から「採」への修訂と「榴」から「榴」への修訂を言う。

(3) 対応する英語の一部分の意味が訳語から抜けているもの (9項)

「二・Ⅱ・a」: 4、5、9、20、34、38番

「二・Ⅱ・b」: 2、3、7番

(4) テンスにふさわしくないもの (1項)

「二・Ⅰ・a」: 5番

本稿で取りあげた項目では、1項しか確認できなかったが、これは文法機能を重視している例として注目すべきものである。

(5) 訳語が重複しているもの (1項)

「二・Ⅱ・a」: 1番

この類のものは外にもあり、拙稿1999 a と2000 b でも一部取り上げている。

(6) 訳語に誤字を使用していること (2項)

「二・Ⅱ・a」: 30、39番

この2項は辞書で誤字であることが確認できたのに対して、特徴(2)のほうに挙げた項目の多くはロブシャイドの『英華字典』の独自性を持っているので、別々に分類することにした。

(7) 固有名詞の間違い (2項)

「二・Ⅰ・a」: 3番

「二・Ⅱ・b」: 1番

(8) 一部の訳語は製版する際、間違っと思われるものがあること (20項)

「二・Ⅰ・a」: 6、7、14番

「二・Ⅱ・a」: 2、3、6、13、21、31、37番

「三」8項

ここに挙げた18項は全部訳語の中の一文字が入れ替えられたものだが、いずれにおいても、底本に記してある訳語の発音表記を見ると、むしろ訂増版の漢字に対応している。即ち、ロブシャイドの『英華字典』の執筆過程では正しい訳語になっていたものが、製版する際、何らかの理由で誤植となった可能性が大きい。ちなみに、これら正誤の漢字同士がどれも字体が類似している。また、「二・Ⅱ・a・14」では訳語は「頭」一文字であるが、発音表記は2文字分あっ

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(V) (金 敬雄)

た。「二・II・b・7」では訳語が「七里」二文字であるが、発音表記は3文字分あった。この2項も製版過程でのミスであると思われる。

上では、さまざまな角度からロブシャイドの『英華字典』における訳語のミスについてその特徴をまとめてみたが、同じ項目が複数の特徴で取り上げられているケースもある。したがって、ここに挙げた項目数を合計すれば、本稿で取り上げた訳語の修訂項目の数より若干多くなるので、そのことをここに断っておきたい。

一方、井上哲次郎の『訂増英華字典』における訳語の訂増の特徴として、次のものが確認できた。

- ・ 訳語の修訂を行っている項目内で底本のミスを見落としたものがあること
「二・II・a」の2、17番
- ・ 訳語の修訂における日本語の干渉があること
「二・II・b」の8番

また、底本の訳語と訂増版で修訂されたものを比較してみると、多くのものは字体が類似しているのが大きな特徴である。上の特徴(2)のほとんどは字体が類似している外、本稿で取りあげたものの中で、字体が類似しているものがさらに下記の通りある。

「二・I・a」: 3、4、6、7、12、14、15番

「二・I・b」: 1番

「二・II・a」: 2、3、6、7、10、11、13、18、26、30、31、32、33、
37、39、40番

「二・II・b」: 1、6番

「三」: 8項

「四」: 5項

「五」: 8項

「六」: 23項

即ち、本稿で取り上げた項目全体において、底本の訳語と訂増版で修訂され

た訳語との間で、字体の類似性を持っているものが130項にのぼり、全体の86.7%になる。

なお、本稿で扱った訳語の修訂項目全体がA～Zの部における分布状況は次の通りである。

A	B	C	D	E	F	H	I	M	N	P	R	S	T	U	V	W	Y	合計
9	19	15	4	5	5	5	4	7	1	8	12	32	4	5	1	12	2	150

注

- (1) 井上哲次郎の『訂増英華字典』は1995年9月25日ゆまに書房から出版されている複製本を使用した。
- (2) 本稿では1995年佐藤武義・成澤勝共編のCD-ROM 復刻版「ロブシャイド『英華字典』」(アビリティ株式会社)を使用した。
- (3) 財団法人 日本私学教育研究所『明治初期における東京数学会社の訳語会の記事』平成11年3月25日 pp. 93～94を参照
- (4) 上 pp. 95～97を参照
- (5) 底本では親見出し「Block」の項に訳語「柴段」がある。ここでも「段」を使用するべきところに「段」を使用しているが、訂増版でそれをそのまま継承している。これはおそらく訂増する際、見落としたものであろう。
- (6) 底本では親見出し「Wedge-shaped」の項に訳語「楯形」がある。ここでも「楯」を使用するべきところに「楯」を使用しているが、訂増版でそれをそのまま継承している。これもおそらく訂増する際、見落としたものであろう。

主要参考文献

- (1) 拙稿
 - 1999 a 「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の削減についての考察」『行政社会論集』 第11巻第4号 1999年3月5日
 - b 「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察 (I) ——符号に関わる訳語の修訂——」『行政社会論集』 第12巻第2号 1999年7月31日
 - 2000 a 「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察 (II) ——字順の変更による訳語の修訂——」『行政社会論集』 第13

井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(V) (金 敬雄)

巻第1号 2000年4月28日

- b 「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(Ⅲ)——同義語・類義語の入れ替えによる訳語の修訂——」『行政社会論集』第13巻第2号 2000年9月30日
- c 「井上哲次郎の『訂増英華字典』に於ける訳語の修訂についての考察(Ⅳ)——訳語の修訂ミス——」『国際文化研究』第7号 2000年12月24日
- (2) 寒河江實「ロブシャイドの『英華字典』——井上哲次郎の訂正増補本について——」『桜文論叢』第47巻 平成10年9月1日
- (3) 宮田和子1999 「井上哲次郎『訂増英華字典』の典拠 ——増補訳語を中心に——」『英学史研究』第32号 1999年10月1日
2000 「井上哲次郎『訂増英華字典』の典拠 ——動詞の自他、分詞、付録を中心に——」『或問』第1号 2000年10月1日
- (4) 佐藤喜代治編集『国語論究』第6集 明治書院 平成9年7月15日
- (5) 森岡健二編著『近代語の成立』明治期語彙編 明治書院 昭和44年9月10日
- (6) 森岡健二編著『改訂 近代語の成立』語彙編 明治書院 平成3年10月20日
- (7) 漢語大字典編輯委員会編著『漢語大字典』四川辞書出版社・湖北辞書出版社 1995年5月
- (8) 漢語大詞典編輯委員会・漢語大詞典編纂処編『漢語大詞典』漢語大詞典出版社 1997年4月第一版
- (9) 諸橋轍次著『大漢和辭典』大修館書店 平成8年1月10日修訂第二版第四刷
- (10) 饒秉才・歐陽覺亜・周無忌編著『廣州話方言詞典』商務印書館 1985年6月
- (11) 香港萬里機構出版有限公司・東方書店編『廣東語辭典』東方書店 1997年3月25日
- (12) 鄭定歐編纂『香港粵語詞典』江蘇教育出版社 1997年5月
- (13) 李榮主編『廣州方言詞典』江蘇教育出版社 1998年12月
- (14) 中国社会科学院語言研究所詞典編輯室編『現代漢語詞典』商務印書館 1989年8月
- (15) 小学館 CD-ROM 版『ランダムハウス英語辞典』1998年11月26日
- (16) *The Compact Oxford English Dictionary*. Eds. J. A. Simpson and E. S. C. Weiner. 2nd ed. New York: Oxford, UP, 1991.